10
October

RESULTS JAPAN ANNUAL ACTIVITY REPORT

平成３１年度

事業報告書

日本リザルツ 令和2年2月21日作成

2019 年 10 月 01 日

手洗い&栄養フォローアップ講習

日本リザルツケニア事務所では、今週、ウエストランズサブカウンティにある 8 つの小学校で、手洗いと栄養改善に関する啓発活動を行っています。
今回も栄養士のペリスさんがサポートして下さっています。
まずは子どもたちが前回学んだことを覚えているかテストをしました。

そして、子どもたちに実際にデモンストレーションをしてもらい、手洗い方法を再確認しました。
子どもたちは指先の間などをしっかりと洗うことなどの大切さを覚えててくれました。

続いて、前回計測した身長と体重の推移を子どもたちにフィードバックしていきます。
栄養指導を担当する先生にも立ち合ってもらいます。ほとんどの子どもたちが順調に成長をしていました。
しかし中には、ケニア保険省が定める標準身長と体重に満たない子どもたちもいました。こうした子どもたちは先生に情報を共有し、保護者に連絡を入れてもらうことにしています。

また、特に深刻な栄養不良の子どもには、ケニア保健省から無償でサプリメントが提供されます。こうしたサービスがあることを知らない教員と保護者もいるため、ペリスさんから先生に指導を行ってもらいました。
こうした取り組みがきっかけで、子どもたちがすくすく健康に勉強できる環境を整えていけるといいなと思います。

伊藤雅治氏

一般社団法人平和と健康の会の初代理事長、伊藤雅治さんが9月1日に亡くなられ、9月5日のブログで紹介いたしましたが、9月27日の日本経済新聞にも記事が出ましたので紹介いたします。

追悼
医療政策 信念で動かす
伊藤 雅治さん

【追悼】ジャック・シラク元フランス大統領

パリ国際会議開会直前の
緊張した雰囲気の会場

ジャック・シラク元フランス大統領が去る9月26日にご逝去され、昨日国葬が厳かに執り行われました。
シラク元大統領は、ご承知のように、国際連帯税の生みの親です。2005年1月世界経済フォーラム（ダボス会議）でその第一声を上げました。翌年には、国際連帯税を国際社会に広めようとして「国際連帯税に関するパリ国際会議」を主催し、世界から93か国の政府代表、18の国際機関代表、60のNGO代表が参加しました。
この会議には、日本からも当時のNGOオルタモンドが招待され、私や上村雄彦先生も参加しました（日本政府はこの時はオブザーバー参加）。2月28日オープニングセレモニーがエリゼ宮（大統領府）で開催されました。冒頭シラク元大統領が演説され、貧困を根絶すべき国際社会のあり方を世界に向けて提示されました。
元大統領のもうひとつの功績は、米国のイラク戦争に断固ノンを突きつけたことです。（最後の）ドゴール主義者らしく自己の信じる正義に従順でありました。その後イラク戦争が米国の間違った証拠にもとづく無益な戦争であったことが証明されました。このことからも元大統領が慧眼の持ち主であったことが分かります。
シラク元大統領、どうぞ安らかにお眠りください。

2019 年 10 月 02 日

ケニアスタッフの新聞掲載が続きます！

昨日、共同通信社編集局科学部の池内次長が日本リザルツにお越しになり、佐賀新聞と徳島新聞での長坂職員の投稿記事（9 月 12 日付けブログ）に加えて、地方 5 紙、福井新聞（8 月 20 日付け）、秋田新聞（8 月 20 日付け）、日本海新聞（8 月 23 日付け）、神奈川新聞(8 月 24 日付け)、そして高知新聞（8 月 31 日付け）、での掲載記事をお忙しい中でお持ちいただきました。池内次長様、本当に有難うございます。最後に 5 社の記事を参考までに掲載しておきます。記事夫々のタイトルも少しずつ異なることがよくわかります。各社の関心の所在も異なっているのでしょうか。それだけ読み応えのある記事なのだと思いました。皆さんはどのように読まれたでしょうか？

2019 年 10 月 03 日

LG 国連イベント開催「SDGs 達成のための革新的資金調達に関するハイレベル会合」

国連 SDGs のためのハイレベル政治フォーラム（HLPF）ウィーク最中の 9 月 26 日、「開発のための革新的資金調達に関するリーディング・グループ（LG）」が「SDGs 達成のための革新的資金調達に関するハイレベル会合」を開催しました。内容については、下記外務省 HP を参照ください。LG の本年の議長国は日本政府で、茂木敏充新外務大臣が開会あいさつをされました。なお、このイベントには、去る 7 月 24 日の国際連帯税シンポジウム 2019 で確認しましたように、当日シンポジウムに参加した学生たちの中から 4 人が出席し、発言を行いました。日本リザルツはじめ多大な派遣費カンパを寄せられた団体・個人に感謝します。学生たちは元気に帰ってきましたので、報告を待ちたいと思います。

【外務省報道】SDGs 達成のための革新的資金調達に関するハイレベル会合の開催

１　9 月 26 日，本年「開発のための革新的資金調達リーディング・グループ」の議長国である日本はニューヨークにおいて，　SDGs 達成のための革新的資金調達に関するハイレベル会合を開催しました。

２　開会挨拶では，茂木敏充外務大臣から，本年日本が議長国を務めた G20 大阪サミットで発出した「G20 大阪首脳宣言」の中で，SDGs の達成のために革新的資金調達が担う役割の重要性を首脳レベルで確認した旨紹介しました。その上で，SDGs を達成するために必要とされる年間約 2 兆 5 千億ドルを埋めるため，今次会合における各国の取組の共有を通じて，革新的資金調達のさらなる推進に向けた気運を高めたいと述べました。

３　会合においては，経済協力開発機構（OECD）及び国連経済社会局からのプレゼンテーションに続いて，フィリップ・ドゥスト＝ブラジー元仏外務大臣，ジャン＝バティスト・ルモワンヌ・仏・欧州・外務担当国務大臣，ウングボ国際農業開発基金（IFAD）総裁，アクセル・ヤコブセン・ノルウェー国際開発副大臣等から，ブレンディッド・ファイナンスや社会的インパクト投資等の様々な革新的資金調達に関する各国・機関の取組事例や，今後の資金調達拡大に向けた協力の在り方等について発言があり，有意義な意見交換が行われました。　★写真は、外務省の HP より

2019 年 10 月 06 日

KOKO Plus の展開を国際開発ジャーナルが紹介！

日頃からご指導を頂いている公益財団法人味の素ファンデーション様のガーナでの KOKO Plus 事業の模様が、国際開発ジャーナル誌 10 月号の「Toward 2030 SDGs フロントランナー」コーナーに、「ガーナ、ベトナムで栄養改善事業を展開」というタイトルで掲載されていますので、紹介させて頂きます。

KOKO Plus の開発は、味の素（株）によりガーナ大学との共同プロジェクトとして 2009 年に始まりました。そもそも Koko とは、発酵トウモロコシで作られたガーナの伝統食です。このプロジェクトにより、地元の大豆原料、パーム油、リジン（アミノ酸）にビタミンとミネラルを加えることでバランスのとれた製品が完成されました。このことで、蛋白質や鉄分などの微量栄養素の不足による幼児の低身長などの発育阻害の予防に貢献する製品ができたのです。その後、栄養効果試験、地域別流通モデル試験等を重ねられ、２０１８年にはガーナ保健サービス局との協力覚書の締結に至ることで、全国展開の基礎ができたということです。

こうした現地での着実な展開にとどまらず、事業主体が味の素本社から味の素ファンデーションに移管されたという組織の高度化も注目されます。同ファンデーションの重宗之雄専務理事は、「社会課題の解決にインパクトある成果を出すため、SDGs 実現においては、他団体との連携がし易い財団の形にして長期的視点に立って取り組むべき」、と指摘されています。

こうした多面的なご努力により、KOKO Plus の受益者は、現在の 1 万 5,000 人（対象とする子供のカバー率 2%）が、2023 年には 20 万人（カバー率 30%）に拡大する見通しとのことです。栄養改善事業を牽引する素晴らしいビジネスモデルがファンデーション様の主導で行われていることを学ばせて頂き本当にありがとうございます。

栄養改善指導の課題

日本リザルツケニア事務所では、今年度、ウエストランズサブカウンティにある 8 つの小学校を対象に栄養・食事指導を行っています。計 170 人分の一連の身長と体重の計測結果を分析したところ、ケニア保健省が定める成長ガイドラインに数値が満たない低身長・低

体重の子どもが 40 人以上いました。つまり 4 人に 1 人が低身長、もしくは低体重なのです。今回は低身長・低体重の子どもたちへのフォローアップも実施しました。栄養士のペリスさんは、卵や牛乳などの低価格なタンパク質を多く摂取するようアドバイスをしていました。特に深刻な症状がみられる 2 人の子どもに関しては学校から保護者に連絡を入れ、公立の医療施設を受診し、無償でもらえる栄養サプリメントを早急に入手するよう通達を入れました。
ウエストランズサブカウンティには、カンゲミ、Deep Sea などのスラムがあり、スラム街から学校に通っている子どもも少なくありません。現にある学校では、ペリスと私が学校を訪問した際も、1 セメスター500 円ほどの学校管理費が支払えないため授業を受けられず、自宅に追い返されている生徒がいました。こうした生徒は 1 回 30 円の給食費を支払うこともできません。改めて栄養と貧困が深い結びつきがあることを知り、抜本的な対策が必要だと痛感しました。

2019 年 10 月 08 日

UNRWA アドボカシー

国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）への支援をお願いする資料を、衆参約 200 名の国会議員に配布しました。
今回も心のこもった手書きのメッセージが添えられています。メッセージの手書き、UNRWA に関する情報の提供、資料のデザイン、資料の封入、配布作業等、様々な方のご協力をいただきました。ありがとうございました。
UNRWA の清田保健局長は GGG+フォーラム@TICAD 7 において、素晴らしい進行をしてくださいました。
また、１０月３日に上智大学で開催された「国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）キャリアセミナー」において、約８０名の参加者に対して、UNRWA で働くやりがいについてお話をされました。
資金的にも、人的にも支援が拡大されることを願っています。

はじめまして。

はじめてのブログです。よろしくお願い致します。初仕事は、GGG　TICAD　議事録　英文校閲です。これは、得意の‘Grammarly’という AI ソフトをフル活用して、間違いゼロ、どこに出しても恥ずかしくない英文を目指しました。

・笑っちゃう間違いの例：AI は everybody が everyboy になっているのを見つけてくれました。これでは、100%　anglophone の人々は笑っちゃいますね。

・ぐっと来た例：AI はこのようなことを言ってきましたよ。
「Friendship is to everyone. この everyone を、every one に換えなさい」。

確かに友情は、ひっくるめた全体のみんなのものではなく、個人個人みんなのものなのです。誰でも愛される権利がある。誰でも人を愛する権利がある。私は、ぐっと来てしまいました。

・なるほどと思った例：AI は客観的に述べるように次のように言葉を換えるよう指摘してきました。
例えば、important → significant
good → crucial
real → essential

確かに、重要であるかどうかは主観に寄ります。良し悪しや、真否も主観に寄るのです。
ですから客観的な言葉に換えるように、とのことでした。
大切な指摘を Grammarly 有難う！！！

2019 年 10 月 09 日

財務省訪問

本日 10 月 9 日午前中に、財務省の幹部をお尋ねしました。アジアの現状と課題について、1 時間ほどお話いただきました。Save the Children からもお二人が聴講者として参加しました。日本リザルツからは、代表の白須と私が参加しました。

財務省では、為替および国際金融市場の安定化、国際経済の調査・分析、国際機関での交渉、途上国支援の企画・立案なども主な業務としています。お話いただいた内容は次のようなものです。

変わるアジア
1930-40 年代　アジアではインフラの整備が求められていました。1960 年代　アジアは今のアフリカより貧しかったという現状がありました。現在、アジアは経済成長しましたが、貧困や餓死ではなく、新たな課題を抱えるようになりました。

アジアが現在抱える課題
現在アジア全体が抱える課題は、①高齢化　　②都市化の問題です。農村でも核家族化が進みました。所得が高くなり生活水準の高さが求められるようになりました。医療に対する要求も多様化しています。

アジアの中の成功例
成功事例はタイです。タイでは、国民皆保険制度を作りました。薬は病院が一括購入するようにしました。総額管理制度ができています。地方勤務しないと医師が昇給できない制度をつくりました。

私たちの今後の課題
先ずは、医療制度について考えることです。保健および健康を推進する人が、今後具体的に必要となります。

国際社会の中で私たちのできること、一人一人が考えていくときがきているのではないでしょうか？

タイの夜景（PIXA の無料画像より）

お話は大変興味深かったです。一人一人にできることとはなにか。ちなみに、私は「国境なき医師団」にこの 15 年間　毎月 3000 円寄付させていただいていますよ。

2019 年 10 月 10 日

原ひろ子氏訃報

GII/IDI 懇談会の前代表の原ひろ子氏が 10 月 7 日に亡くなられました。原さんは文化人類学やジェンダーが専門でした。白須も大変お世話になりましたので、非常に残念がっております。
原氏の人類学者としての研究活動や、ジェンダーに関する市民活動などについて、
一橋大学の「ジェンダー社会科学研究センター」のウェブにかなり詳しく載っています。
原氏のご冥福をお祈りいたします。

2019 年 10 月 12 日

「ノーベル平和賞のユヌス氏に逮捕状」との報道

「ノーベル平和賞のユヌス氏に逮捕状　首相との確執背景か」とのタイトルの報道が 10 月 12 日付け朝日新聞にありました。報道ぶりを下記に掲載します。
同氏は、貧困層への無担保小口金融として世界的に有名なバングラデシュの「グラミン銀行」の創設者であり、2006 年のノーベル平和賞の受賞者でもあります。そしてまた、日本リザルツの名誉理事でもあります。同報道では「同国の裁判所が 9 日、逮捕状を出した。従業員の解雇をめぐる裁判で出廷命令に応じなかったためだが、ハシナ首相との確執を背景にした政治的な動きとみられる」、とも報じていますが、詳細は不明であり、今後の動向を注視する必要があります。いずれにしましても、同氏の名誉回復が早くなされることを心よりお祈りしています。

2019 年 10 月 13 日

ケニアの子どもたちの食生活

日本リザルツケニア事務所では、ウエストランズサブカウンティの 8 つの小学校で栄養指導を実施しています。子どもたちの食生活を分析したところ、以下の課題が浮き彫りになってきました。栄養士のペリスさんが結果をまとめてくれました。

①タンパク質不足
栄養不良の子どもはタンパク質の摂取量が不足している。またタンパク質を摂っていたとしても植物性タンパク質しか摂取していない子どもが多い。なぜならケニアでは動物性タンパク質(肉や卵)より、植物性タンパク質の方が安いからである。しかし、豆に含まれるタンパク質の量は動物性のものより少ない上、摂取できるアミノ酸の種類も限られてくる。
成長期の子どもにとって、タンパク質は身体をつくるための重要な栄養素になる。肉や卵は必須アミノ酸が摂取できる優良なタンパク質であるので積極的に摂って欲しい。

②野菜の摂取不足
栄養不良の子どもたちは野菜や果物をほとんど摂取していなかった。なぜなら、炭水化物(ウガリや米)に比べて、それらが高価であるからだ。学校、子どもたちはもちろん、母親への知識啓発も必要である。貧しい世帯の子どもたちは、甘いチャイとウガリやパン、マンダジ(日本のドーナツ)だけでお腹を満たす傾向にあり、食べているものの種類も少なかったです。これらが安価に手に入るからです。栄養不良の子どもたちと面談したペリスさんは同じものばかりではなく、色々な物を食べることが大切であると、子どもたちに伝えていました。
一連の取り組みを通じて、子どもの栄養改善は子どもだけでなく、ご飯を用意するお父さんやお母さんの知識と意識の啓発も重要であることを実感しました。

2019 年 10 月 16 日

ノーベル経済学賞ー貧困問題研究ーフランス人女性

今月はノーベル賞の話題に日本中が明るい気持ちになりましたね。旭化成研究フェローの吉野 彰氏がノーベル化学賞受賞決定しました。吉野氏は電気化学を専門とする日本のエンジニア、研究者です。

受賞理由はリチウムイオン二次電池の開発で、環境への優れた影響が評価されました。私たち日本リザルツも、「貧困問題研究に経済学賞―ノーベル賞　米大学の 3 氏」(朝日新聞夕刊　2019 年(令和元年)10 月 15 日(火)の記事に湧きました。

インド出身のバナジー氏、フランス出身のデュロフ氏、米国出身のクレマー氏の 3 氏の研究は、世界的な貧困の緩和と解消を厳密な実験手法を導入することにより試みたことが高く評価されました。研究成果は現実の貧困問題に応用されました。インドで 500 万人以上の生徒が、受賞者らが築いた教育プログラムの成果を享受したとされています。学校教育や子どもの公衆衛生の改善が目指されました。

３氏は、医療分野で使われている二重盲検法などの「ランダム化比較試験（ＲＴＣ)」という研究方法をいち早く開発経済学に応用し、漫然と教科書の提供や無料給食を実施しても効果が少ない一方、本当に手助けが必要な生徒に的を絞った支援をすると、全体の教育水準が大きく改善することなどをフィールドワークで突き止めました。

わたしがもう一つの喜びと思うのは、女性として二人目のノーベル経済学賞の受賞者が決定したことです。以下の図表をどうぞご覧ください[i]。「Gender Bias in Nobel Prizes 」【ノーベル賞におけるジェンダー・バイアス】という論文です。

赤が女性のノーベル賞受章者です。1901 年から 2018 年までです。女性はなんとまだ少ないことでしょう。女性の研究が正当に高く評価される、そんな未来を構想したいものです。

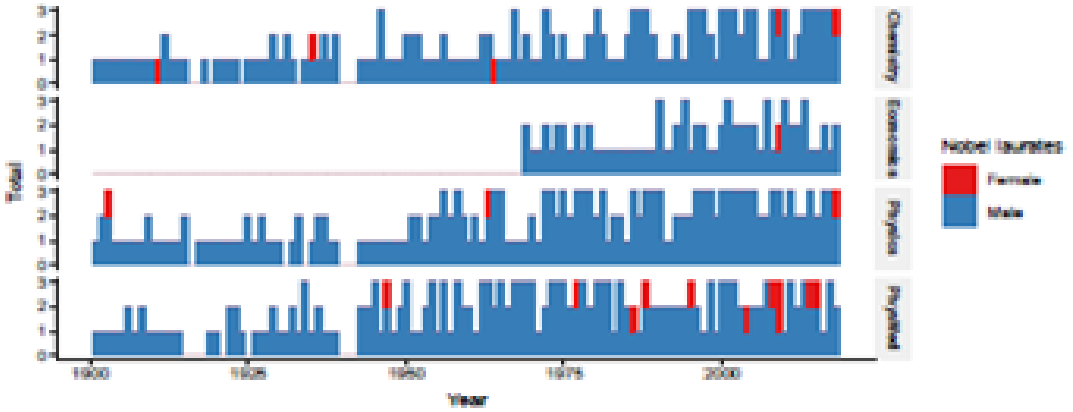


Fig. 1 Gender distribution of Nobel Prizes. Bar plot of the scientific Nobel Prizes from 1901 to 2018

[i] Per Lunnemanna, Mogens H. Jensenb, and Liselotte Jauffredb, Gender Bias in Nobel Prizes, Palgrave Communications 5,46,2019.

2019 年 10 月 17 日

食欲の秋―「うま味」の出番です

いつの間にか秋。食欲の秋です。元気で健康な生活を送るには、何よりも食事を欠かさず、十分な栄養を摂取することが必須です。食欲を促進するのがうま味です。うま味の勉強を始めましたが、味覚と食嗜好研究所代表の山口静子先生が数年前に関西の大学の栄養学科でされた講義の概要が大変分かり易かったですので紹介いたします。
まず、うま味とは、「甘味・塩味・酸味・苦味・うまみ味」の 5 種類の味（「五味」）のひとつです。味には 5 種類あるということです。ところで、うま味といえば昆布だし。昆布のうま味成分がアミノ酸の一つであるグルタミン酸です。生まれてはじめて口にする母乳にも豊富に含まれているそうです。人体、健康とも元々なじみ深い成分なのですね。うま味要素の仲間であるイノシン酸の溶液をグルタミン酸溶液と組み合わせて飲むことでより深い味わいを感じるそうです。これを、専門用語では、「味覚の相乗効果」というのだそうです。講義に参加した学生たちも実験体験により確かめたそうです。
また、うま味は、「いろいろな味成分や食材を互いに生かしあい、調和させることによって生まれ、食物の選択や摂取を生存のためのよりよい方向に導く要」とのことです。うま味とは、思いの他奥が深そうです。

GGG+フォーラム@TICAD7 議事録郵送作業

本日は職員、ボランティアで GGG+フォーラム@TICAD7 の議事録郵送作業に励んでいます。
名刺をいただいた方はそのまま封筒に宛先を書けるのですが、当日名刺をいただかなかった方々へは送付先の住所を調べてからになり、相当数がありますので、なかなか大変な作業となっています。

2019 年 10 月 18 日

国際連帯税議連の総会準備と「新しい資金を考える」有識者懇談会について

昨日（17 日）国際連帯税創設を求める議員連盟の総会準備のため衛藤征士郎会長（衆議院議員）と石橋通宏事務局長（参議院）との会議があり、これに外務省・吉田地球規模課題総括課長も参加し、またアドバイザリー・チームの田中と白須も加わらせていただきました。ご案内のように、外務大臣が河野太郎議員から茂木敏充議員に代わりまして、新大臣のもとに最初の税制改正を迎えます。上記会議はこれに向けての総会開催の準備を行うためのものでした。結論的に言って、総会について茂木新大臣も出席していただけるように日程調整を行うこと、また 9 月の国連総会ウィークに派遣された学生たちの報告も兼ねることを確認しました。

「新しい資金を考える」有識者懇談会は両建てで

前河野大臣の肝いりで発足した「SDGs の達成のための新たな資金を考える有識者懇談会」（略称：新しい資金を考える会）ですが、その目的は革新的資金調達の方法やその使途等についての提案を行うことです。7 月 22 日に第一回会合を開いた後、4 回ほど議論を積み重ね、現在「中間論点まとめ」の段階まで来ました。
議論は、新しい資金創設のため税制方式と民間資金活用の両建てで行われていまして、実は私、田中徹二も会の委員となり、主に航空券連帯税など税制方式の分野で発言させていただいています。実りある「中間論点まとめ」が出ることを祈念しています。

★写真は、9 月 26 日ニューヨークで開催された「革新的資金調達に関するリーディング・グループ」のサイドイベントで発言する議長の茂木新大臣（外務省の HP より）

目指せ、ピカピカのヘルスセンター

日本リザルツケニア事務所では、活動拠点であるカンゲミヘルスセンターの掃除を行って

います。カンゲミではもともと定期清掃の習慣がなく、ヘルスセンターでも注射針や血のついた綿がそこら中に転がっていました。こうした公衆衛生の不備は更なる感染症のまん延を引き起こします。何とかせねば！ということで、定期清掃を始めたのです。
最初は筆者と警察官だけで掃除をしていましたが、徐々に仲間が増え、今ではヘルスセンターのスタッフのみなさんが毎朝必ず掃除をしています。また、ヘルスセンター長のシェムさんがポイ捨て禁止を呼びかける張り紙をするなど、スタッフのみなさんが啓発活動を進んで行って下さっています。

この日はお掃除隊長のサミさんと小児科周辺の掃除を行いました。

ゴム手袋と防護服を着て衛生面に注意して行っています。

しかし課題もあります。
カンゲミ地区は下水、排水設備が脆弱です。
雨が降るとすぐ施設が浸水し、泥だらけになってしまいます。

掃除はもちろんのこと、排水設備も含めた施設の改善をするなど、より包括的な対策が必要かもしれません。
きれいでピカピカのヘルスセンターを目指して、カンゲミヘルスセンターのみなさんと取り組みを続けていきます。

サンキューセミナー

本日、長崎大学熱帯医学研究所の山本教授にお越しいただき、日本リザルツの事務所でNGO サンキューセミナー「エボラ出血熱とアフリカの UHC」を開催しました。
今回のセミナーは、これまでのような講師から一通りお話をしていただいた後で質疑応答の時間という形ではなく、もっと自由な議論ができないかという試みを含めて行いました。ふたを開けてみると、講師の山本教授へ向けて次から次へと鋭い質問が投げかけられるだけでなく、参加者の皆様の間で議論が始まるなど、予測不能な楽しみがあるセミナーになったのではないかと思いました。
日本リザルツの活動はこのように多士済々な皆様のおかげで成り立っているのだと、改めて感謝の気持ちで一杯になりました。
これからもどうぞよろしくお願いいたします。

2019 年 10 月 20 日

ケニアの小学校の衛生環境

日本リザルツはケニア・ナイロビ市で結核抑止プロジェクトをしています。先日、ウエストランズサブカウンティの 8 つの小学校で手洗い指導のフォローアップを行いました。
5 月に最初のセミナーを行った際は 6 割程度の子どもしか、正しい手洗いの方法について回答ができませんでしたが、今回の調査では 9 割以上の子どもが正しい方法を回答することができていました。
一方、各学校ではトイレ不足が依然として課題となっています。子ども 125 人に対し、1 つしかトイレがありません。しかも、上下水道が脆弱であるため、水が流せず詰まっている水洗式トイレも多々あります。
こうした衛生環境の不備は、コレラや下痢などの感染症まん延の原因となります。しかし、公立学校は資金不足のため、新たなトイレを設置することができていません。
トイレ不足のため、子どもたちの中にはトイレではなく、グラウンドの隅などで用を足す子もいるのが現状です。また、女の子は外で用を足すのが恥ずかしいので、トイレを我慢しているという子もいました。
学校の衛生環境を向上させるため、知識や意識の啓発とともに、施設の整備も重要であると感じました。

2019 年 10 月 21 日

G20 保健大臣宣言

10 月 19 日、20 日に、岡山県岡山市で G20 保健大臣会合が開催され、大臣宣言が発出されました。日本リザルツが特に関わっている分野についてどのように述べられているか、過去 2 年（2017 年ドイツ・ベルリン、2018 年アルゼンチン・マル・デル・プラタ）と比べてみました。

・結核
　2017 ドイツ：5 つの段落に記述。内容は UHC2030 の実現、薬剤耐性、研究開発など。STOP TB Partnership などの試みの重要性についても記述。
　2018 アルゼンチン：4 つの段落に記述。内容は国連総会結核ハイレベル会合の成果、SDGs、規格外・偽造薬剤の害など。

2019 日本：２つの段落に記述。国連総会結核ハイレベル会合の宣言を再確認すること、グローバルファンドの増資成功を歓迎すること、薬剤耐性に立ち向かうための研究開発の重要性など。

この 3 年間で、徐々に記述の量及び質共に低下しているように感じます。2030 年までに結核を根絶するという目標を達成するためには、結核対策を加速しなくてはならない中、心配な状況に見えます。

・栄養
2017 ドイツ：「nutrition」という言葉の記載なし。
2018 アルゼンチン：「Malnutrition: Childhood Overweight and Obesity」という題で 5 段落を栄養に割いている。子どもの過体重、肥満、栄養不足、微量元素不足、国連総会非感染性疾患に関するハイレベル会合などに言及。
2019 日本：3 つの段落で栄養に言及。プライマリー・ヘルスケアの一部としての栄養、栄養のための行動の 10 年や栄養サミットへの期待、健康な高齢化のための重要な要素の内１つとしての栄養について記述。

アルゼンチンが 4 つの柱の内 1 つを栄養としているのに対し、日本では柱となっていないという点はありますが、栄養サミットへの期待ということが述べられています。栄養サミットを来年に控えている国で開催された保健大臣会合の宣言という点では、もっと意気込みを見せて欲しかったという気もします。

なお、TICAD 7 の際には、総理大臣の演説に「保健」「栄養」「教育」という言葉を引き続き含めていただくようお願いをしていましたが、保健大臣宣言では、2017 年、2018 年と記載のあった「education」という言葉が 2019 年はありませんでした。

ところで、今回の宣言で 1 点嬉しかったことがあります。それは日本リザルツがキャンペーン事務局をしている Gavi ワクチンアライアンスについての記述が大幅に増えていることです。ドイツにおける宣言では UHC の達成において重要な役割を果たす官民連携の一例として Gavi が挙げられていましたが、アルゼンチンにおける宣言では Gavi という名前は記載されませんでした。今年の宣言では、ポリオ根絶への努力、Gavi の増資会合成功への期待、医薬品特許プール、感染拡大の予防といった内容に関して Gavi の名前が記載されています。一連の Gavi アドボカシー、TICAD7 における Gavi の増資準備会合といった流れが、日本による Gavi への支援拡大につながってくれることを期待させる内容となっていました。この宣言が今後の国際保健の進展、また来年の保健大臣宣言にどう影響するか注視していく必要があると思いました。

2019 年 10 月 23 日

アレセイア湘南高校ご一行

本日、茅ヶ崎市にあるアレセイア湘南高校から学生さんが日本リザルツの見学にいらっしゃいました。なんでも、「国際協力の働きとしてわたしたちにできること」というテーマの総合学習の一環として、それぞれが国際協力に関係しているところを訪問して、学んだことを発表し合うそうです。

日本リザルツの成り立ちや各国のリザルツ、ACTION パートナーシップについて、また日本リザルツで行っている結核対策、スナノミ症対策、栄養改善、国際連帯税、GGG といった内容について紹介をしました。

また、スナノミ症対策の靴寄付プロジェクトに関しては、ボランティアの藤崎さんにも話をしていただきました。

その後、国際連帯税に関する活動でお世話になっている国際連帯税創設を求める議員連盟の石橋事務局長の事務所を訪問しました。学生さんたちも、普段入ることができない議員会館に入れたことを喜んでくれていました。

急なお願いにもかかわらず、学生さんたちを温かく迎えていただき、ありがとうございました。

2019 年 10 月 24 日

サンキューセミナー懇親会

10 月 18 日(金) のサンキューセミナー終了後、別室でエビスビールとワイン、スナック類で、ささやかな懇親会を行いました。セミナー参加者の 7 割くらいの方が参加して下さり、1 時間ほどでしたが、皆様楽しそうに歓談されていました。

2019 年 10 月 25 日

顧みられない熱帯病議員連盟会議
参議院会館で開催予定

次のようなセミナーが行われます。

【表題】：顧みられない熱帯病(NTDs)の根絶を目指す議員連盟会議のご案内

【日時】：2019 年 10 月 29 日(火曜日)　8:00-8:45 (AM)

【場所】参議院会館　B1　107 会議室

【内容】・TICAD7 について

・顧みられない熱帯病の課題について
　長崎大学客員教授　一盛和世先生

・GHIT(Global Health Innovative Technology Fund)

・ESPEN(Expanded Special Project for Elimination of Neglected Tropical Disease)

大勢のご参加を日本リザルツ一同お待ちしております。

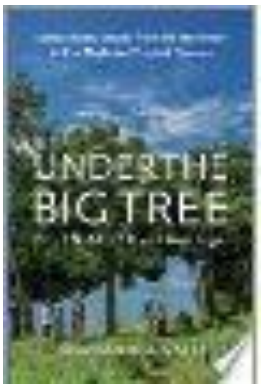
ところで、このセミナーに最適な本がありますのでご紹介したいと思います。
既にご存知の方、あるいは「お釈迦様に説法だよ！」と思われる方はご容赦ください。

著書：
Ellen Agler, Mojie Crigler, Under the Big Tree: Extraordinary Stories from the Movement to End Neglected Tropical Diseases, JHU Press, 2019/01/15 – 240p.

この本の‘ちょっとした’解説：by Google Books　以下翻訳

「顧みられない熱帯病（NTD）は、10 億人を超える世界で最も貧しい人々に影響を与えています。 毎年 17 万人以上が NTD で亡くなっており、さらに多くの人が失明、障害、外観を損なわれること(disfigurement)、認知障害、発育不良に苦しんでいます。
しかし、NTD は治療可能かつ予防可能であり、治療の年間コストは非常に低いのです。

この本：「Under the Big Tree」の中で、公衆衛生のリーダーである Ellen Agler と受賞歴のある作家 Mojie Crigler が、これらの病気に苦しんでいる人々の感動的な物語と、NTD と戦い、行われた救命活動について語ります。 彼らは、ビクトリア湖の洗車係やバイクにまたがった外科医、リソースの不足している地元の非政府組織（NGO）や大手製薬会社の科学者まで、世界中のあらゆる人々の人生を紹介し、世界最大の公衆衛生プログラムと呼ばれているものを記録しています。
解決策はシンプルです。つまりそれは、必要な人に薬を届け、地域のシステムを活用して予防、治療、教育を提供することです。ところがまた 一方で、解決策は大変複雑です。地方および国の政治をナビゲートし、最も辺境で傷つきやすいコミュニティに治療を提供し、世界あるいは地域のドナー、国際 NGO、数千人の医療従事者、および数百万の市民を調整しなければならないのです。
「Under the Big Tree」は、最先端の研究と最前線の経験を共有する NTD の世界のメジャー・プレーヤーとのインタビューを引用しながら、世界で最も脆弱な人々に影響を与える恐ろしい病気に取り組むための科学、戦術、およびパートナーシップの感動的な紹介をしています。ビル・ゲイツによる序文から始まり、この本は読者を魅了し、刺激し、将来にわたる仕事への具体的なステップを与えています」。この本は e-book で￥2,981-で、Amazon では新品が￥2,276-で購入可能のようです。この機会にお読みになられてみてはいかがでしょうか？



2019 年 10 月 27 日

スナノミ症これまでの歴史と課題

日本リザルツは国会議員の先生、省庁、企業、そして日本国民の皆さんとスナノミ症抑止に向けたアドボカシーを実施しています。今後のアドボカシーに向けて、ケニアと日本、そして日本リザルツの取り組みを振り返ってみました。

スナノミ症：日本とケニア国友好の歴史

2014 年　ケニア保健省においてスナノミ症のガイドラインができる

2015 年　3 月 3 日をスナノミデー「Jiggers Awareness Day」に定める

2016 年　12 月：秋野公造参議院議員とあべ俊子外務副大臣（現）がすなのみ村を訪問

2017 年　3 月：佐々木さやか参議院議員が参議院予算委員会でスナノミ症に係る国会質問

6 月：エチオピア航空の協力のもと、1 万足の運動靴がすなのみ村に届く

7 月：小倉將信衆議院議員、山際大志郎衆議院議員、イボンヌ・チャカチャカさんとスナノミ抑止キャンペーンを実施

2018 年　5 月：秋野参議院議員が参議院予算委員会でスナノミ症に関して国会質問

7 月：外務省の支援で、スナノミ症抑止に向けてすなのみ村の学校が改修される

しかし、まだまだ課題があります。スナノミ症にかかるのは、ケニアでも農村部や田舎の最貧困層の人々です。そのため、ケニア保健省内にスナノミ対策を取り扱う確たる部署がありません。また、三大感染症のように国家戦略もなければ、強力なドナーもいないため、予算もついていません。2014 年にガイドラインができましたが、こちらはスナノミ症についての概要と治療法がまとめられているのがほとんどで、戦略や実施事項が書かれているわけではありません。

200 万人いると推定されているケニアのスナノミ患者。彼らが健やかに暮らすことができるよう、ケニア保健省を中心としてトップダウンでスナノミ根絶を目指す気運が高まればと願います。

2019 年 10 月 29 日

サンキューセミナーのテープ起こしに取組む

18 日に行われた NGO サンキューセミナー「エボラウイルス病とアフリカの UHC」の議事録作成に取組みました。「テープ起こし」を行う中で、日頃この分野の業務で数多くの議事録（作品）を作成している同僚の UME 氏の苦労を実体験することができました。また、逃さずに取った写真も裏表紙に載ることになりました。テープお越し作業で自ら手を動かすことで、エボラウイルス、更には、抗生物質の歴史など非常に難しいテーマながら、数多くのテーマに魅了されました。深堀のため山本先生の著書にも挑戦してみようと思います。

顧みられない熱帯病(NTDs)の根絶を目指す議員連盟会議

こんにちは。雨が多く肌寒い日が続いています。さて、10 月 29 日　8:00-(AM) 参議院会館　B 1 107 会議室にて、満席。日本リザルツは　「顧みられない熱帯病 NTD s の根絶を目指す議員連盟会議」に全員参加出席しました。主として長崎大学客員教授の一盛和世先生がお話しされました。TICAD サイドイベントとして NTD s がないアフリカへ一日本とアフリカのパートナーシップを目指して積極的な支援をすること。必要な医薬品の研究開発につづき積極的な支援を行うこと。医薬品の流通を促進すること。NTD s の根絶のための拡大特別プロジェクトのための予算を確保し、その後も継続的な支援を行うこと、が確認されました。
ところで、‘顧みられない熱帯病’とは、なんでしょうか？

・虫が媒介するもの

条中病　裏虫病　外部寄生虫病　土壌伝搬寄生虫病　住血吸虫病　ギニア虫感染症
包虫症　　食物媒体吸虫類感染症　オンコセルカ　デング熱(蚊）シャーガス病（原虫 Trypanosoma cruzi トリパノソーマ・クルージ の感染）トラコーマ（寄生微生物）
リーシュマニア症（トリパノソーマ科の原虫；蠅により媒体）
ヒト・アフリカ・トリパソーマ症、リンパ系フィラリア症、

・動物によるもの
狂犬病　有毒蛇咬傷

・菌によるもの
ハンセン病（抗酸菌の一種であるらい菌）ブルーリ潰瘍（グラム陽性桿菌)、
マイトセーマ（真菌）トレポネーマ（螺旋状の細菌）

私の認識がどこかで間違っているかもしれませんが、上のように分類してみました。蚊や蠅などに媒体される熱帯病が多いことが推測されます。
小さい頃、蚊帳（かや）というものがありました。蚊に刺されないよう、蚊が入らないよう、もぐりこんだものです。わたしが寝付くまで、母が団扇でふうわり、ふうわり、扇いでくれました。夏の風情を醸し出して、良い雰囲気でした。
日本では、蚊帳はいつのまにか、姿を消しました。うちの蚊帳もいつのまにか、捨てられてしまったのでしょうか？素朴かもしれないけれど、アフリカに蚊帳は似合わないのだろうか、活用できないのだろうか？とひとり考えておりました。

駅にエレベーターの設置を！

日本リザルツのらぽーる事業や離婚テラスでボランティアをしていただいている嶋貫さんは、身体に不自由な部分があり、長いエスカレーターに立ち続けることが困難です。通勤で利用している駅では駅員さんにサポートしてもらい、階段を使用しています。駅へのエレベーターの設置を切に希望しています。東京都にもその旨の希望を伝えましたが、いまだに正式な回答を得ていません。本日は国会議員の秘書さんに、直接、嶋貫さんの話を聞いていただきました。これから全ての駅にエレベーターが設置されるか、今後の展開が楽しみです。

2019 年 10 月 30 日

世界トイレ大革命が大躍進
（JICA と LIXIL が覚書締結）

2017 年 7 月 4 日のアメリカ独立記念日に合わせて発足した「世界トイレ大革命」。
2 年余りにわたって地道に活動を続けてきましたが、ついに、今日、大きな動きがありました。なんと JICA と LIXIL が世界中へのトイレ普及を目指して、覚書を締結したのです。
おめでとうございます！（拍手）
以下はプレスリリースの引用です。

JICA と LIXIL が連携協力覚書を締結　～世界中にトイレの普及を目指して～
国際協力機構（JICA）と株式会社 LIXIL グループ（LIXIL）は、10 月 30 日、業務連携・協力に関する覚書を締結しました。署名は、JICA 北岡伸一理事長と LIXIL グループ瀬戸欣哉取締役代表執行役社長兼 CEO との間で行われました。本覚書は、トイレの普及などを通じた途上国の衛生の改善や安全な水の確保等に向けて、双方が行う活動の効果を増進させ、持続可能な開発目標（SDGs）ゴール 6「安全な水とトイレを世界中に」の達成に貢献することを目的としています。我が国は水・衛生分野で ODA（政府開発援助）による協力実績額の第 1 位を 10 年連続で占めており、JICA はこれまで途上国の上下水道に関する施設の整備に加え、法制度や運営管理人材の能力強化などに注力してきました。また、LIXIL はコーポレート・レスポンシビリティ戦略として「グローバルな衛生課題の解決」や「水の保全と環境保護」を掲げ、安価な開発途上国向けの簡易式トイレシステム「SATO」を開発し、これまでにアジアやアフリカを中心に計 25 カ国以上でソーシャルビジネスを展開しています。このたびの覚書の締結を受け、JICA と LIXIL は、トイレの普及状況や衛生環境に関する調査、衛生的なトイレの普及に向けた啓発や教育などの活動を通じた連携等を推進していきます。途上国での幅広いネットワークや多様な援助スキームを有する JICA と、国や地域の衛生事情にあわせたソリューションを提供し、トイレの生産・販売・管理体制の構築に努める LIXIL が相互補完的な効果をもたらすことで、開発途上国の衛生環境の改善に対しより包括的な支援を実現することが期待されます。

トイレ普及の輪がこんなにも広がるなんて、私もコスプレした甲斐がありました。
覚書がきっかけとなり、世界トイレ大革命に向けたムーブメントがますます加速しそうですね！

2019 年 10 月 31 日

人生 100 歳時代を生き抜く
ー日本リザルツ結核凧空高く舞い上がれ

日本リザルツ道場に入職、いや入門し、もうすぐ 2 年。何百枚かのスナップ写真が手元にある。それらを見ていると、思い出がまるで走馬灯のように頭の中を駆け巡る。今では全てが宝物だ。何ができ、何ができなかったのかを絶えず反省し、できるように努力せよ、常々代表から言われていることだった。その中で、昨日早朝、米国 REF の仲間たちとのスカイプ会議では、可成り興奮気味だったが多少とも会議をリードできたことを実感した。遅々として進まない宿題に解決の兆しが見えたのだった。最後は代表による締めではあったものの、自分を出せたと思える瞬間だった。We made it, Tokyo team and Noriko!　でもこれだけでは終わらせてくれないのが日本リザルツだ。今日が REF からゲイツ財団提出の第三四半期報告の締め切りだという。代表からポイントを何点か示された。結果、出来栄えは、質量とも完全版の三分の一程度、不合格だった。それを、若手エースの UME 氏が切れのいい英語で care してくれて米国に発信してくれた。多少とも自分の原文を活かしてくれた。You made it, my friend!!That looks perfect for me、と自分は心の中で叫んでいたのですよ、UME 君。大げさだけど、人生 100 歳時代だ、日本リザルツで得た財産をもとに、新たな道を自ら開拓していこうと素直に思う。リザルツのみんな、必死で支えてくれた家族に心からお礼を言いたい。本当に有難う。